

J-クレジット制度管理者御中

## 実績確認概要書

令和2年2月12日

審査機関名 ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社

### 1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	重油ボイラから天然ガスボイラへの更新プロジェクト
承認番号	JCDM-PJKC0356
排出削減事業者名	紀和化学工業株式会社
排出削減共同実施事業者名	丸紅株式会社
事業実施場所	紀和化学工業株式会社 フィルム事業部 貴志川工場 (和歌山県紀の川市貴志川町北 196-1)
事業の概要	重油ボイラは、経年劣化及びすすの付着等によってボイラ効率が悪化しているため、新しい天然ガスボイラへ更新することで燃料使用量を削減し、CO <sub>2</sub> 排出量を削減する。さらに、天然ガスは重油よりも単位発熱量あたりの炭素含有量が少ないため、ボイラの燃料を天然ガスに転換することにより CO <sub>2</sub> 排出量を削減する。
排出削減量の計画	2011-2012 年度： 926tCO <sub>2</sub> /年 2013-2018 年度： 892 tCO <sub>2</sub> /年 (事業実施期間合計 7,204 tCO <sub>2</sub> )
認証期間	開始日 2011年4月1日 終了予定日 2019年3月31日 ※J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は2019年3月31日となっている。
排出削減方法論	方法論番号 001 ボイラーの更新

## 2. 本実績確認の対象期間

2018年4月1日～2019年3月31日（第5回目実績報告）

## 3. 実績確認結果

本実績確認期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	918 tCO <sub>2</sub> （2018年4月1日～2019年3月31日）
-------	---

## 4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	審査手続き
排出削減量が承認排出削減計画に従って実施した結果生じていること。	1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないため該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 LNG 購買伝票及び事業者へのヒアリング 等 にて、導入設備は実績報告期間において継続的に稼働していたことを確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	1) モニタリング方法の確認 LNG 購買伝票、事業実施前後ボイラーのカタログによる効率値及び事業者へのヒアリングにより、モニタリング方法が方法論及び当該削減計画に沿って実施されていたことを確認した。 なお、事業実施前ボイラー効率については、より正確な効率把握を目的として、ボイラーメーカーより毎月提供されるボイラー月報から、月間蒸発量による加重平均で効率を算出する方法を今回採用している。その結果、事業実施前ボイラー効率はより保守的な値となり、排出削減量に影響を及ぼす重大な変更には該当しないことを確認した。 2) 活動量の正確性 LNG 購買伝票及び事業者へのヒアリングにより、エネルギー使用量の記録・保存は適切になされており、活動量が正確に集計されていることを確認した。

	<p>3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認 J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.3.5 及び事業者へのヒアリングにより、排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等は方法論及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 排出削減量の算定結果を LNG 購買伝票と集計表との突合、さらに計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に大きな誤りはないことを確認した。</p>
算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと	今回の実績確認対象期間は 2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2019 年 3 月 31 日となっているため、当該算定結果は適切であることを確認した。

## 5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

本実績確認期間の実績確認の結果、承認排出削減事業計画からの重要な変更点がないことを確認した。

## 6. 特記事項

本実績確認期間における省エネルギー量は、原油換算 3.6 kl であることを確認した。

以 上